

マンスリーサポーター 募集中

日本ハビタット協会は、人々が安全で安心して暮らせる持続可能なまちづくりを推進しています。近年は、全世界的な課題となつている「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に貢献できるよう、アジア、アフリカでの給水設備とトイレ建設、植林による環境保全と自然共生社会の創造、国内外における災害時の緊急及び復興支援などの活動を展開しています。

世界の人々が笑顔で暮らし続け、その暮らしを未来の世代につないでいくためには、国や企業だけでなく、市民一人ひとりが行動を起こすことが欠かせません。ぜひマンスリーサポーターになって、私たちと一緒にSDGsを達成し、笑顔あふれるまちづくりを実現していきましょう。

詳細・お申込みは、こちらをご覧ください。▶▶▶

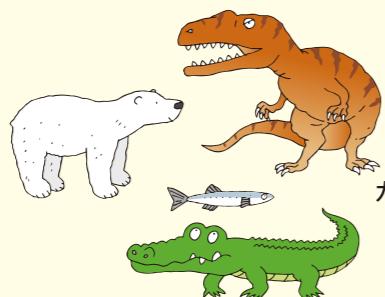


ハビタット クイズ？！

コインにはその国の動物や植物などの特徴が描かれているよ！

図柄から国名を当ててみよう！

（図柄と国名を線で結んで答えてね。）



- | | | |
|------------|---|-----------|
| フクイラブトル | ● | パプアニューギニア |
| ホッキョクグマ | ● | 日本 |
| カペリン(シシャモ) | ? | カナダ |
| ワニ | ● | アイスランド |

ご協力いただきありがとうございます

2018年7月1日～2018年11月

（敬称略・順不同）

みなさまのご支援ご協力により、多くの国と地域において、まちづくり事業を実施することができます。心から感謝申し上げます。

ご寄附 国際ソロブチミスト北九州一南・熊本一さくら・人吉・壱岐、福岡空港ビルディング（株）、成田国際空港（株）、関西国際空港（株）、東京国際空港ターミナル（株）、博多港開発・西部ガス共同事業体、中部国際空港（株）、那覇空港ビルディング（株）、新千歳空港ターミナルビルディング（株）、熊本空港ビルディング（株）、珈琲店ストーンズ、柳瀬ユミ、澤渡好子、六波羅昭、矢崎隆一、野田泰子、平良サキ子、福田一彦、服部ミサエ、富取善彦、（株）三菱商事、樋渡チエ、樋口謙一郎、白澤和子、内田俊隆、藤田直子、藤岡美千代、田野井弥生、田代杏奈、植田美和子、長島定則、長谷川隆徳、中村勇、中村幸子、中井禮子、中井庸子、池端直亮、池村俊郎、丹波佐和子、丹羽浩康、棚橋泰、大塚俊之、大隅道子、曾我洋子、浅沼尚也、川畑博敏、赤枝六木本木診療所、石井清俊、水上英佐子、水口喜美子、森多賀子、新井てつお、松本賢次、小澤久良子、小方辰子、小家典子、勝又宏幸、山本和、山本隆一、ハビタット福岡市民の会、山口実知子、三浦弘之、坂尚美、（有）カーパーツマルサ、高島肇久、高橋竜子、古庄弘美、原田義信、郷古実、宮本知枝、平野絢子、杉町、JSCO、宮田秀子、久保庭啓一郎和子、久保政彦、菊池ヨネ子、鬼頭猛、（有）岩田時計店、笠由美子、「チャリティー・リレーマラソン東京2018」事務局、永田潔、一柳とく江、丸井聰、田中正昭、三浦教子、（株）ジェーシーピー、マリ・クリスティーヌ、篠原大作、藤田美江子、清水雅子、大木京子、太田祥歌、牟田慎一郎、末次憲二、大石カンナ、古川裕里子、堀寛紀、堀保子

Readyfor（教科書プロジェクト）のご寄付 Tsune Tsuchiya、たまさか、別府拓也、Robin Lewis、佐藤和恵、富取善彦、平岡宏一、Mika Sato、Asami Masuya、yumiari117、田代杏奈、山崎美希、日高夏希、ミユキ、村瀬朱里、JUN、迎里円、寺田猛（アジアの子供たちに小学校を作る会）、Chie Kiyoura、下村政裕、Shuhei Shirataki、Ryo M、今村稔、k-tag、臼井和也、西垣辰彦、knk、園田圭佑、竹田明弘、みよこ、Tsuneaki Iki、伊藤豊、滝澤進、宵の明星、Tsune Tsuchiya、山本博子、Masako、小野森人、TA-1、Mayuko Mochizawa、Mutsumi Inoue、Yusuke Kinoshita、益美、Shun Tsukimura、今井一彦、徳永隆、satosato、高橋祐二、渡邊剛人

ご協力いただいた方及び団体 国際ソロブチミスト唐津、ニューサンマー、（株）新橋スタンプ商会、ソフトバンクモバイル、ハビタット福岡市民の会、地球環境基金、ちよだボランティアセンター、シャン・ド・ミュリエ、（社）日本フランソロピー協会、あおぞら銀行、（株）ジェーシーピー、ザ・ボディショップ、シトリックス・システムズ・ジャパン（株）、三菱商事（株）、（株）電通、アクセンチュア（株）、半蔵門駅前郵便局、こどもの夢ネットワーク、（株）エッチャールディ、ジーコ（遠兄幸哉）、大和証券（株）、全国女性会館協議会、倉敷市、世田谷区、中野区、アジアの女性と子どもネットワーク、今井杏奈、樋口謙一郎、中嶋健治、平岡宏一、花島光男、塚越勝美、長谷川隆徳、小泉邦夫、白浜靖彦、平良サキ子、佐藤昭二、丹波佐和子、加藤弘子、藤田美保、小野雅恵、林富子、堤優子、小方辰子、山際則子、菊地澄子、小家進、野崎美知子、吉野和子、大島政子、岡部晃子、三島康雄、宮本知枝、佐藤和恵、藤岡美千代、錦織茉、中村麻子、中野穂積、大隅道子、田島エミ、ハビタットフレンズの皆様

発行：認定NPO法人 日本ハビタット協会（発行責任 篠原大作／編集責任 山本博子）

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-6-3 都道府県会館 5 階 福岡県東京事務所分室内

TEL / FAX : 03-3512-0355

E-mail : info@habitat.or.jp / URL : https://www.habitat.or.jp



HABITAT 日本ハビタット協会 まちづくり通信 No.34

日本ハビタット協会は、国連ハビタットと共に世界中の人々が安全で安心して暮らせるまちづくりを推進しています

日本ハビタット協会が目指す笑顔あふれるまちづくり



日本ハビタット協会は、国連ハビタット（人間居住計画）とともに、悪化した居住環境を改善し、世界中の人々が安心して安全に暮らせるまちづくりを実施しています。実施している事業は多岐に渡りますが、その全てが、人々が自ら、自分たちの暮らす地域、コミュニティをよくしていくことができるようなサポートを行っています。

主な事業



現地主体のまちづくり

事業は、現地の人々が主体となって行われます。住民が主体となり、開発や改善を行うのは、国連ハビタットや居住開発分野では、People's Processssと呼ばれています。コミュニティの住民自らが、自分たちの課題について考え、事業を通して、その課題を解決していくことができる取り組みを行っています。

持続可能なまちづくり

日本ハビタット協会は、様々なまちづくり事業を実施していますが、事業のゴールは、外部からの支援に頼ることなく、現地の人々の手によって、活動が引き継がれ、継続されています。そのため、現地の人材育成と、活動を続けていくための現金収入の向上に力を入れています。

次世代育成の国際協力

副会長マリ・クリスティーヌ

日本ハビタット協会は国連ハビタットの支援団体として2001年に創立し、18年間の活動の中でアフガニスタンやイラクの紛争後のまちづくり、スマトラ沖地震を始めとする世界各地で頻発する自然災害の復興事業などを行ってきました。

ここ数年はラオスの植林やケニアのトイレ作りなど、人々の暮らしに密着した事業を行っています。ラオスでは中学生が苗木の育成に熱心に取り組んでおり、ケニアのトイレ事業を中心になって推進しているのは20代の若者です。どちらの事業も若者が自分達の地域に活力を生み出すために力を發揮していることに大きな希望を感じています。

私は国際協力の中で重要なことは物や資金を直接提供するのではなく、自分達の状況を自らの力で良くしていくように、その技術や手法を支援する“Help them to help themselves”というアプローチだと考えています。そして、それを行うのがこれから世の中を担っていく若者であることが理想です。力を信じて任せ、見守りながら助言していく次世代育成の国際協力をこれからも続けていきたいと思います。





ケニア スマイルトイレプロジェクト

カモロ村 レポート

トイレが変わった! 村が変わった!

before 村人の半数以上がトイレを使えなかった…

★ 村人の**97%**がトイレを使えるようになった

after

★ 周知活動により県が2つの公衆トイレを設置

★ 野外での排泄が減り、環境が改善

★ 石鹼付きの手洗い場の普及率が31%から**61%**に上昇、下痢**30%**削減



事業担当者からのメッセージ

プロジェクトを実施しているホーマベイ県は、トイレの普及率が低く、トイレがあっても、屋根がない、足場が不安定、悪臭などの理由により使われていないケースも多いです。私も何度も使いましたが、このようなトイレなら草むらや川での野外排泄の方がましたと考る村人の気持ちが分かりました。しかし、野外排泄は下痢や感染症、環境汚染等を引き起こし、コミュニティの発展が阻害されます。安心して使える清潔なトイレを各家庭に設置していくことで、地域社会のより良い発展を促していくたいと思います。

ある村人からこれは気持ちよく使えるトイレ“Smile Toilet”だと言われたのは、とても嬉しかったです。2018年10月から、5つの村においてトイレ建設が始まっています。現地協力団体SAWA YUME KENYAや保健省等と協力しながら、野外排泄ゼロを目指します。みなさまの引き続きのご支援よろしくお願いいたします。



Javan Okello氏からのメッセージ

日本のみなさん、こんにちは。ジャパン・オケロです。

衛生環境というのは、人間の健康や尊厳を守り、人が生活していく上で、とても重要です。また、健康であれば学校に行けますし、安定して働くこともでき、地域経済とともにコミュニティが発展します。しかし、今世界では約 25 億人の人がトイレにアクセスできず、コレラなどの感染症や下痢により、多くの人、特に 5 歳以下の幼児が命を落としています。

ケニアにおいても、トイレにアクセスできる人は限られており、地方ではわずか 32% です。日本のみなさんにとってのトイレは、水洗式で、ウォシュレットなどの機能付きで、いつでも使えるものですが、ケニアでは全く違います。プライバシーが保たれていない、悪臭、たくさんの糞、茂みに隠れたり、薄暗くなるまで待つたりする、そんな日常を想像できるでしょうか。

スマイルトイレプロジェクトを通して、トイレが各家庭に設置されることで、誰でも好きな時にトイレを使えるようになります。今年の6月からホーマベイ県の5つの村で実施していますが、約23%の家にトイレがなく、手洗い場がない家は 74% の状況でした。しかし、ワークショップやトイレ建設技術指導により、トイレがない世帯は 12% に下がり、その内の半数近くが現在建設中になりました。トイレには、日本の LIXIL が開発した便器が使われています。

日本のみなさんご支援ご協力のおかげで、トイレが設置され、衛生環境が改善しただけでなく、乳幼児の死亡率の削減、学校の出席率の向上などの地域発展につながっています。本当にありがとうございます。これからもみなさまのご支援よろしくお願いします。



ラオス

環境教育を通して地域の若者の力を引き出す

今年度から始まったラオスの環境教育プロジェクトでは、地域の中学生がより自然環境と自分たちの生活の関わりを学ぶことができる教育プログラム作りを行っています。プログラム作りやワークショップの実施には、中学校の先生達だけでなく、ルアンパバーン農業大学の教員や学生達が関わっています。

プロジェクトに参加する地域の大学生たちが、中学生を指導していくことで、地域で環境保全活動の取り組みがさらに進んでいくことが期待されます。

現地からの声 ルアンパバーン農業大学スタッフ Phonevilay Soukky 氏

このプロジェクトは、地域の若者たち、特に大学生にとって、新たな経験を積むとても良い機会となっています。若者にとって大切なのは、教室で勉強するだけではなく、自分にとって身近な環境問題について、しっかりとと考え、相手に伝えていくことだと思います。

私たちの取り組みの大きなポイントは、環境問題という難しいトピックを、ゲームなどを通じ、子どもたちが楽しく学べるように工夫していることです。ラオスでは、現在、さまざまな環境問題がおきています。本来降るべき時に雨が降らない一方で、洪水や土砂災害が頻発するようになりました。普通、授業というと、大変だったり、つまらなかったりしますが、子どもたちが、環境問題を深く理解するためには、ゲームや漫画などの教材はとても良いと思います。地域に環境教育がしっかりと根付いていくよう、みんなで一丸となって取り組みを進めて行きたいです。



日本

西日本豪雨復興支援

7月に発生した西日本豪雨の復興支援を、倉敷市の男女共同参画課を通じて実施しました。今回も、現地から寄せられた声を元に、女性と子どものケアに焦点を当て、女性や子ども用の下着計400着、防犯ブザー200個を届けました。また、大和証券からのご協力を得て、フリースランケットを300枚届けました。

言い出せ
なかったので
嬉しいです！



現地からの声 倉敷市役所 男女共同参画課 大田 富美子さん

この度の西日本豪雨災害に際し、いち早く女性や子どもの下着等を御支援いただき心より御礼申し上げます。被災者からは「自分に合うサイズの下着がなく困っていた。有難い。」「避難所生活で皆が手一杯の状況の中、言い出せなかったので嬉しい。」といった声をいただきました。下着に限らず、避難所では女性のための更衣室やトイレ、洗濯物干し場など、女性特有のニーズがありますが、混乱の中、その切実な要望は後回しにされがちです。今回、避難所を回る中で、これらの要望を汲み取り実現することが、避難所生活を支えるうえでも復興を進めるうえでも重要なことだと痛感しました。この経験を生かし、今後の復興・防災に多様な視点を反映させていきたいと思っています。本当に有難うございました。